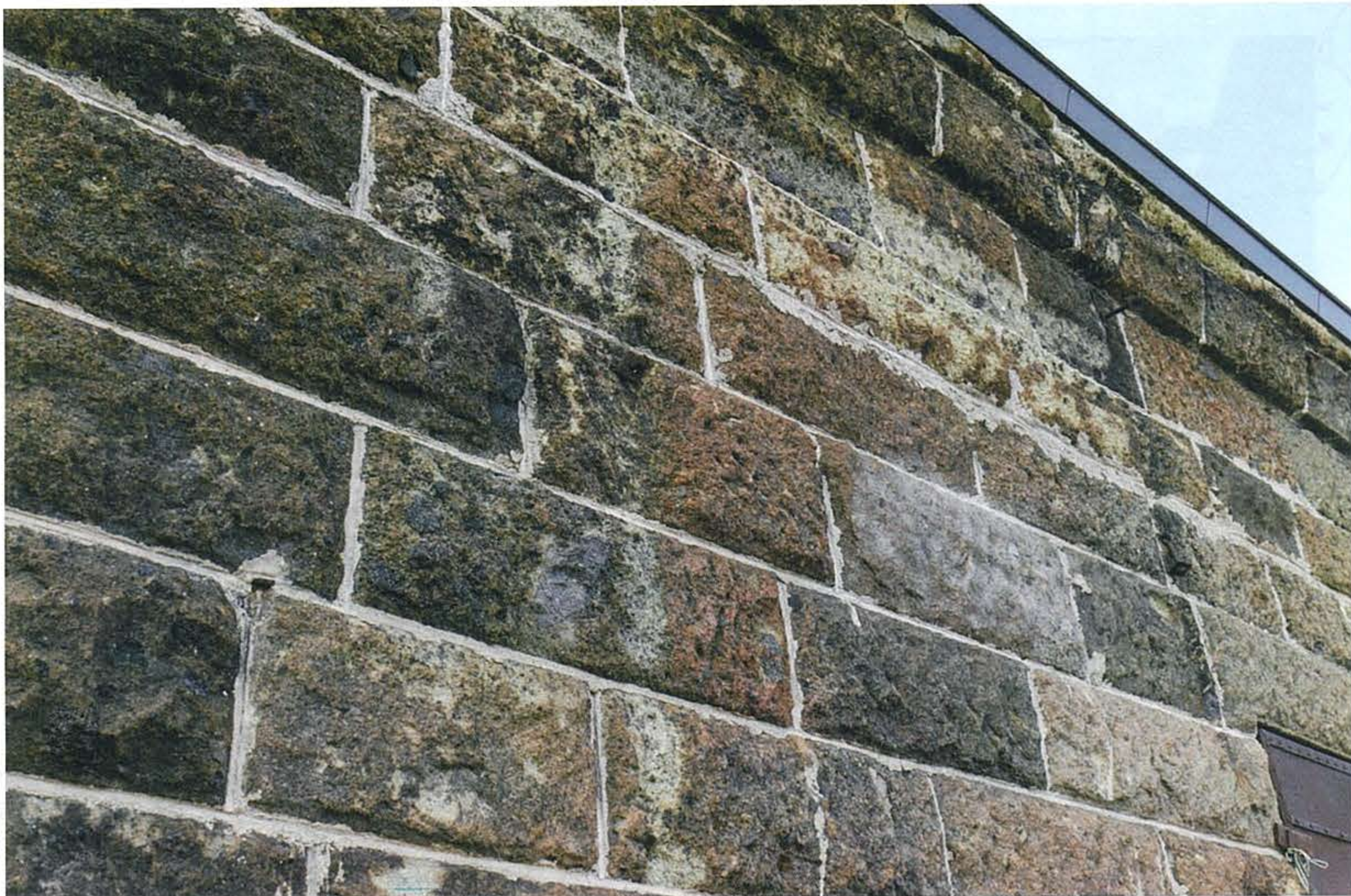


たんやん

青森の戦跡・慰霊碑を巡る③

東北最大の被害が出た「青森大空襲」



1945年7月28日夜、青森市をアメリカ空軍のB29が空爆しました。罹災家屋16,000戸、罹災者約80,000名、死者1,018名、負傷者255名（報告資料・報告時点により数の変動あり）。空襲により青森市の中心部はコンクリートや土蔵など火災に強い建物は残りましたが、木造の建物が多くそのことがよく空襲で焼け落ちました。

青森空襲の被害規模は東北最大と言われ、人的被害が拡大した要因がいくつかあります。①7月14日、15日の空襲（連絡船への空襲、7月号掲載）以降、青森市内から疎開・避難する人が増えていました。そのことを受け7月21日に青森市役所が「逃避者は28日までに復帰しなければ配給を停止する」と布告し、疎開・避難した市民は戻らざるをえなかった。②空襲の前日にアメリカ軍が予告のビラをまきました。③憲兵隊や警察が回収し読むことを禁止したため、空襲が知られることはありませんでした。④新型の焼夷弾が83,000本投下され、木造の家屋が次々に燃え、消火も防空訓練も防空壕も意味をなさず、防空壕内での死者が多かった。といったことがあります。

青森市内には、昨年11月号で紹介した戦跡もありますが、青森市中央市民センター内に「青森空襲資料常設展示室」があります。青森県内では貴重な戦争時のことを知ることができる施設です。青森空襲のことや戦争被害、GHQの占領後の様子などが知ることができます。



原爆投下・戦後80年

広島で平和について学んできました



▲似島でガイドさんの説明を受ける参加者

25年度新規学卒採用者と内部登用者10名が、5月14日～16日に平和学習として、広島県で原爆について学習や戦跡を巡りました。原爆ドームや平和祈念公園の他、原爆投下後、約1万人の被爆者が運ばれた似島（いのしま）を訪れました。

5月26日に、報告会がコープあおもり本部で実施され、3日間の行程を分担してグループで、広島県で学んできたことについて発表しました。発表後、広島の研修で現地をみて思ったことなどを一人ひとり報告しました。

今回は、青森センターの組合員担当奥崎さんが研修を通して「生協職員として“平和”について継続できることは何か」について考えたことを紹介します。

3日間の研修をさせて頂き、壮絶な状況が現実にあったと見て聞いて体感することができました。今年で終戦80年目、被爆者の平均年齢も86才となり人数も少なくなり、戦争の跡も開発により保存されていない物もありました。町は見事に復興を遂げ穏やかではありますが、日本にもこれからの平和のためにも今も紛争で世界に難民が1億1730万人もいる事の現状を知り政治に関心をもち、SDGsの目標の1つにも平和が盛り込まれていて他者を差別せず対話をしていく事の大切さを今回の研修で気付かせられるきっかけになりました。青森センター 組合員担当 奥崎祐也

2025年度

はじめてばこのお届けを開始します。



7月1日(火)、十和田センターで、コープあおもりが協賛するRABアップル・バース・キャンペーン「はじめてばこ」の出発式を行いました。出発式ではセンターの職員が2025年度最初の「はじめてばこ」お届けに向かう職員を見送りました。



〔応募対象・応募期間〕

2026年4月1日までに生まれた、青森県内の住所に住居登録された赤ちゃんが対象です。
 ※誕生日から6か月以内にお申し込みください。
 ※期限を過ぎて応募いただいた場合はご対応出来かねますのでご了承ください。
 ※期間外の方は申し込みできませんのでご了承ください。
 ※申し込みは対象のお子様の保護者の方に限ります。



▲「はじめてばこ」のお申込みはこちらから

RAB 放送 Apple Birth Campaign 特設サイト
<https://www.rab.co.jp/event/apple-birth-campaign/>